

PPS024-36

会場:103

時間:5月23日 17:15-17:30

SELENE-2の着陸場所推薦 Landing site recommendation for SELENE-2

佐伯 和人^{1*}, 荒井 朋子², 荒木 博志³, 石原 吉明³, 大竹 真紀子⁴, 唐牛 譲⁵, 小林 直樹⁴, 杉原 孝充⁶, 春山 純一⁴, 本田 親寿⁷

Kazuto Saiki^{1*}, Tomoko Arai², Hiroshi Araki³, Yoshiaki Ishihara³, Makiko Ohtake⁴, Yuzuru Karouji⁵, Naoki Kobayashi⁴, Takamitsu Sugihara⁶, Junichi Haruyama⁴, Chikatoshi Honda⁷

¹ 大阪大学, ² 千葉工業大学, ³ 国立天文台, ⁴ 宇宙航空研究開発機構, ⁵ 早稲田大学, ⁶ 海洋研究開発機構, ⁷ 会津大学

¹Osaka Univ., ²Chiba Inst. Tech., ³National Astronomical Obs. of Japan, ⁴Japan Aerospace Exploration Agency, ⁵Waseda Univ., ⁶Japan Agency Marine-Earth Sci. Tech., ⁷Univ. Aizu

日本の次期月着陸探査計画 SELENE-2 が、2010 年台半ばの打ち上げを目指して計画されている。SELENE-2 の科学的成果を最大にする着陸候補地点を選ぶために、2010 年 3 月に月着陸候補地点検討会議が SELENE-2 プリプロジェクトのサブチームとして発足した。本検討会議では、月惑星科学における第一級の課題解決のため、SELENE-2 探査が目指す科学目標を明確に設定し、目標達成のためにはどの地点に着陸し、どのような戦略で観測を行うべきかについて議論・提案する。2010 年 6 月に日本惑星科学会、日本鉱物科学会、日本地球化学会、日本地震学会、日本測地学会の会員をはじめ、広く月科学に関心のある地球惑星科学コミュニティの研究者に呼びかけ、21 グループから、35 件の科学テーマと約 70 箇所の着陸地点の提案が寄せられた。これらの提案を基に科学目的の重要性、技術的実現可能性を考慮しつつ議論を進め、今日もっとも優先すべきサイエンスを実行するための、複数の着陸候補地と探査計画案を作成した。本講演では、探査計画案とその選択根拠を説明する。

キーワード: 月, 月探査, 着陸機, 着陸場所, SELENE-2, ローバー

Keywords: moon, Moon exploration, lander, landing site, SELENE-2, rover